

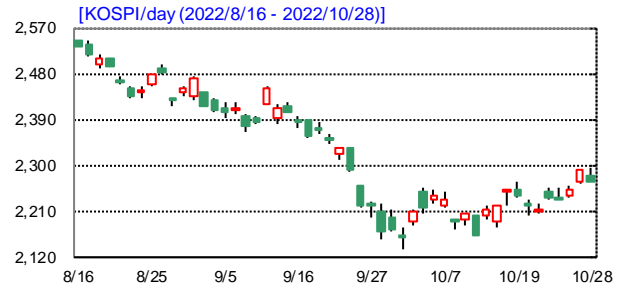


【韓国】 総合指数は週間で2.5%高と続伸、今週は神経質な相場か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.5%高と続伸。米国の低調な経済統計を受け、世界的に金融引き締めペースが減速するとの思惑買いが相場を支えた。週明け24日は4営業日ぶりに反発。韓国政府が債券・短期金融市場の信用収縮懸念を緩和するための措置を講じ、買い安心感が広がった。25日は中国株式市場の乱高下が警戒されて小幅に反落したものの、26日は半導体や電池の関連銘柄が全体の反発を主導。米FRBの利上げペースが鈍化するとの見方から前日の米株式相場が上昇した流れを引き継いだ。27日も上昇し、終値は9月23日以来ほぼ1カ月ぶりの高値だった。28日は前日の米ハイテク株安が嫌気されて3日ぶりに反落し、週を終えた。今週は神経質な相場か。米FOMCとパウエルFRB議長の見聞、米10月雇用統計が注目材料。

▼指数チャート

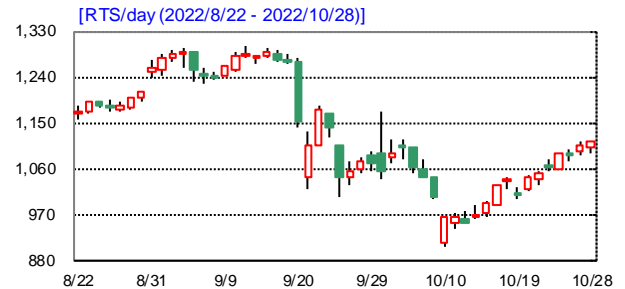


【ロシア】 RTS 指数は週間で6.0%高と大幅続伸、今週は引き続き堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で6.0%高と大幅続伸。海外株高や原油高、地政学リスクの緩和が追い風となる中、主力のエネルギー、金融株が指数をけん引した。週明け24日は前週末比1.2%高と前週20日から3日続伸。海外株高が支援となる中、企業ニュースが好感されたルサールの大幅高や、ガスプロム、タトネフチの配当支払いが好感された。センチメントの改善を受け、25日もロスネフチやズベルバンク、ガスプロムが大幅高となり、指数は2.7%高と大幅に4日続伸。26日は0.2%安と小幅に反落したものの、週後半は海外株高、原油高、地政学リスクの緩和などを背景に続伸した。個別銘柄ではロスネフチ、ノバテックがともに9.8%高となり、ズベルバンクが6.3%、ルクオイルが6.0%上昇した。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート

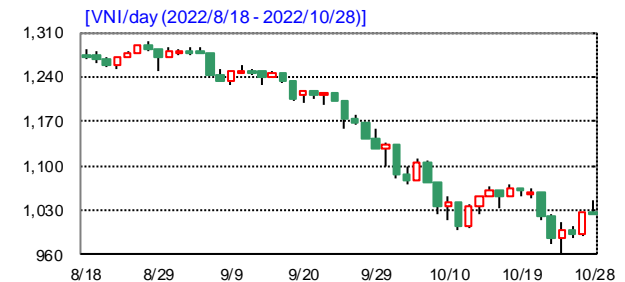


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.7%高と反発、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%高と反発。1000ポイントを割り込んだことで押し目買いが強まったほか、通貨安の一服も安心感につながった。前週末に3.6%下落した指数は、週明け24日も3.3%安と大幅に4日続落。終値で2020年11月以来の1000ポイント割れとなった。25日も売りが優勢となり、指数は一時962.45ポイントまで下落したが、売り一巡後は優良株を中心に押し目買いが強まり、1.2%高と5日ぶりに反発して終了した。26日は0.4%安と反落したが、27日はセンチメントの改善を受けて3.5%高と大幅反発。1日の上昇率は5月以来の大きさとなり、4日ぶりに1000ポイントを回復した。前週に対米ドルで2.9%下落した通貨ドンが週間で横ばいとなり、通貨安が一服したことも安心感につながった。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



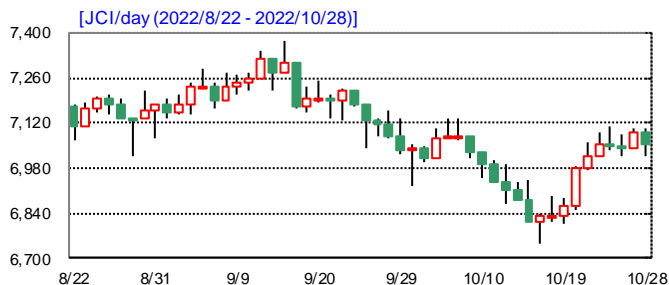


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.5%高、今週は 1 日に 10 月の CPI 発表

ジャカルタ総合指数は週間で 0.5%高と続伸。国内の経済イベントが少ない中、1 週間を通じて終始 7000 ポイント台での取引となった。週初の 24 日は、前週末の NY ダウが金融引き締めペースの減速観測が浮上したことを受けて大幅反発した流れで 6 営業日続伸。ただ、25 日に中国株の下落に連動して小幅反落すると、26 日は狭いレンジで続落した。週後半は 27 日に資源株を中心に買い戻されたが、28 日は反落して引けている。今週は 1 日に 10 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 6%台になる見通し。外部要因では、前週末の NY ダウがハイテク株主導で大幅上昇した効果が期待される。

▼指数チャート

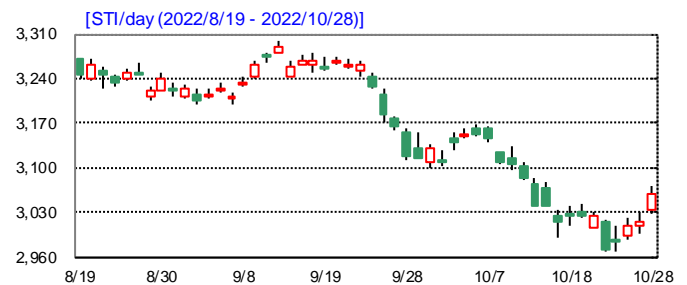


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 3.0%高、好決算のユナイテッド・オーバーシーズ銀に買い

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 3.0%高と 3 週ぶりに反発。週末まで 4 日続伸と好調だった。連休明けの 25 日は、前日の NY ダウが利上げペース減速への期待感が高まった効果で続伸した流れを引き継ぎ、4 営業日ぶりに反発。26 日に終値で 3000 ポイント台を回復すると、27 日は 7-9 月期の企業決算発表が始まる中、買い優勢の展開が続いた。28 日は 2 桁増益を計上したユナイテッド・オーバーシーズ銀行が指数上昇をけん引し、前日比 1.5%高で取引を終えている。今週は 2 日に 10 月の製造業 PMI、4 日に 9 月の小売売上高が発表される予定。外部要因では 1-2 日開催の米 FOMC が焦点になる。

▼指数チャート

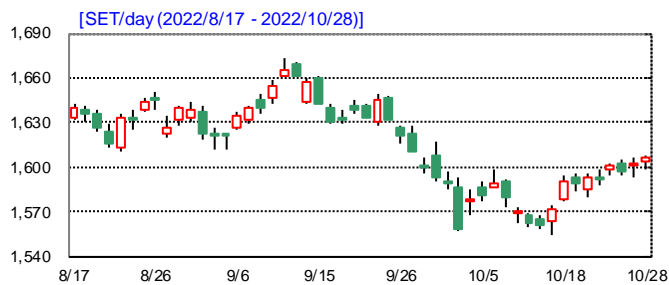


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%高、7-9 月期の銀行決算を好感

SET 指数は 4 日間の取引で 0.9%高と続伸。1600 ポイントを挟んでもみ合いが続いた。連休明けの 25 日は、7-9 月期の銀行決算がおおむね堅調だったことで買われ、終値で約 1 カ月ぶりに 1600 ポイント台を回復。26 日は 9 月の輸出額（通関ベース）が市場予想から上振れたものの効果は薄く、指数は反落した。ただ、27 日に買い戻されると、28 日は前日に発表された 7-9 月期の米 GDP（季節調整済み）が 3 四半期ぶりのプラス成長となった効果などで、続伸して引けている。今週は 4 日に 10 月の CPI が発表される予定。外部要因では中国の 10 月の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI が指数を左右するか。

▼指数チャート

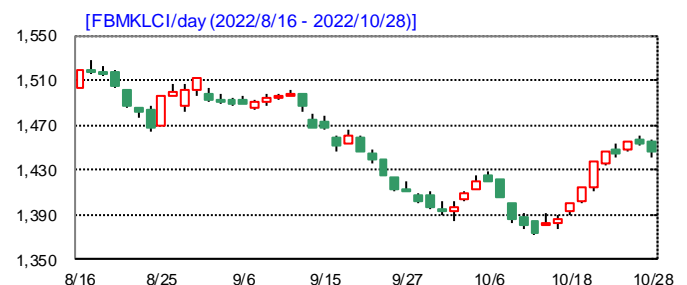


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.1%高と小幅続伸。前週に大幅上昇した反動で、上値の重い展開となった。連休明けの 25 日は、ペトロナス・ケミカルズ・グループやパブリック銀行などの大型株に利益確定売りが出て、指数は 7 営業日ぶりに反落。26 日は引け際に買われた効果で反発したが、27 日に小幅反落すると、28 日も買い材料に乏しく幅広い銘柄が売られ、結局、3 日続落して取引を終えた。今週は 3 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、4 会合連続での利上げが実施されるかが焦点。今後は 11 月 19 日に投票が行われる下院議会総選挙に向けた動きも意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。